

「バレンタインデーとアメリカの休日」

蟬本 睦

＜バレンタインは男性から女性に＞

2月14日がバレンタインデーなのはアメリカも一緒ですが、祝い方が少し異なるようです。日本とのオンラインミーティングで「チョコレートをもらいましたか?」と聞かれましたが、アメリカではたいてい逆です。男性から女性に花や贈り物を送ったり、きちんとしたレストランで食事をしたりと、老若男女、カップルが愛を確かめ合う大事な日となっています。

米国国務省がアメリカにおけるバレンタインデーを以下のように説明しています。

「アメリカ人は毎年2月14日にバレンタインデーを祝い、カードや手紙を送ったり、チョコレートや花のような贈り物を送ったり、レストランで食事を楽しむことでお祝いをします。多くの大人は、バレンタインデーを愛する人に宝石のような高価な贈り物を提供する機会と見なしています。また、プロポーズや結婚式に最適な機会でもあります。学校の子どもたちは、しばしばクラスメートとバレンタインカードやキャンディーを交換します。時には、生徒たちがクラスで自分たちのバレンタインカードを作ることもあり、それらは通常、ハートのイメージや赤いバラ、キューピッドで飾られています。」

上述のように、チョコレートやキャンディーを贈るという風習は少なからずあるようですが、日本のように極端にチョコレート一辺倒ということではなく、むしろグリーティングカードや花、宝石などギフトを贈り合うイメージです。

＜レストランは書き入れ時＞

そんなことから、新年が明けてしばらくした頃から、アメリカの小売店ではバレンタインの装いになり、ディスプレイがどこもかしこも赤くなります。また、多くのカップルを受け入れるようなレストランもバレンタイン特別メニューを用意したりします。おしゃれなレストランは予約でいっぱいとなり、まさに書き入れ時となります。ニューヨークのレストラン業界では2月、8月というのが割と客足が少ない月なのですが、このバレンタインデーだけは別で、人気のレストランは予約が取れない、というのが例年の状況です。

＜実はアメリカの祝祭日は日本に比べて少ない＞

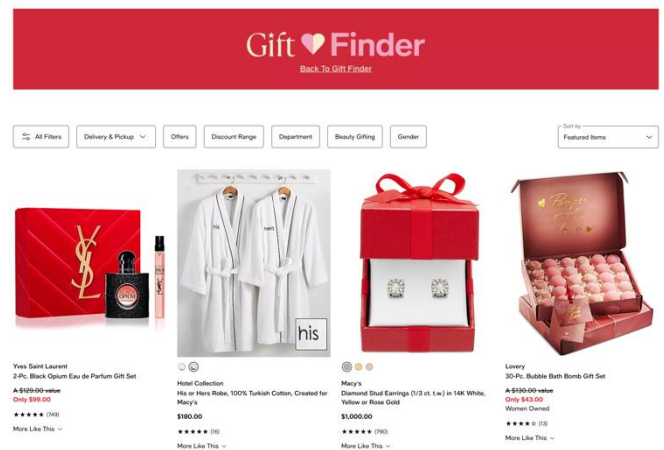
このように、バレンタインデー一つをとっても日米ではかなり風習が異なりますが、祝日や休日の考え方も異なります。皆様にとっては、アメリカの方がのんびりしているイメージで、日本人は働き過ぎという印象はないでしょうか?それは欧州には当てはまるかもしれませんが、ことアメリカにおいては当てはまらないと思います。アメリカの連邦で定められた祝日は、年間11日のみであり、日本の祝日16日より5日少なくなっています。

＜益暮正月、年度末、ゴールデンウィーク＞

アメリカでは夏や感謝祭やクリスマスはたっぷり休みますが、年始は1月2日が平日であれば普通に働き始めます。

また、アメリカから見ていると、日本は年末年始でかなりビジネスが止まってしまい、年が明けてもなかなか始まらず、それこそ成人の日の連休ぐらいまで工場も休みが多く、しばらくするとすぐに年度末という節目で少しビジネス的に動きにくくなり、さらにゴールデンウィーク、しばらく経つと盆休みという感じで、とても休みが多いという印象を持ちます。

本当に所変わればということで、メディアが伝える印象と実際は異なることが多いと筆者は常々思いますが、そういったことを認識することは日米間のビジネスをスムーズに行うためにも重要であると考えます。



(出所: Macy's 百貨店 HP のバレンタインギフトページ)